

高度の頸管熟化不全妊婦に対してジノプロストン腔用剤を使用した際、 妊娠経過に与える影響の観察研究

1. 研究の対象

- 1) 2018年4月から2022年3月のあいだに妊娠36週0日から妊娠41週6日の間に頸管熟化処置、あるいは分娩誘発を行った妊婦
- 2) 頸管熟化処置あるいは分娩誘発を開始した時点で Simplified Bishop スコア 0-2 点の頸管熟化不全と診断された方
- 3) 頸管熟化不全に対して、ジノプロストン腔用剤(商品名:プロウペス腔用剤)あるいはその他の頸管熟化処置を行われた方

2. 研究目的

頸管熟化促進薬であるジノプロストン腔剤が2020年1月日本でも承認され、使用可能となった。ジノプロストン腔剤に関しては先行する欧米で他の頸管熟化処置や頸管熟化促進薬とその有効性・安全性に差は無いと報告されている。

当院でも、2020年よりジノプロストン腔剤の使用を開始した。ジノプロストン腔剤錠は自費診療であり比較的高額であることから、実際には、極端に頸管熟化が不良な症例を選んで使用するような運用となっている。その preliminary な印象としては、高度の頸管熟化不全を認めるにもかかわらず、順調に自然経産分娩に至る臨床経過が多く感じられる。そこで今まで頸管熟化処置を行われた症例のうち、頸管熟化処置開始時点で高度の頸管熟化不全をとまなう妊婦に対して、ジノプロストン腔剤を用いた症例と、それ以前の方法を用いた群を、有効性、安全性、経済性の観点から比較する。

3. 研究に用いる資料・情報の種類

年齢、妊娠回数、分娩回数、BMI、頸管熟化処置あるいは陣痛誘発の方法、処置開始時点での破水の有無、処置開始後分娩に至るまでの時間、分娩様式、胎児機能不全の有無、新生児の出生時体重、Apgar スコア、入院期間、医療費などの情報をカルテより収集します。

4. 外部への資料・情報の提供・公表

当院の診療情報データを利用するので、外部への提供等はありません。

連絡・問い合わせ先

三菱京都病院 産婦人科 杉並 興

615-8087 京都市西京区桂御所町1番地 電話 075-381-2111(代)